

防災



ももた てるこ 議員が問う

ドローンの導入は

質問を終えて

須恵町へのドローンの導入は、今すぐは難しいとのことですが、近年、急な線状降水帯の発生などで、あっという間に道路が浸水することがあります。ドローンの活用について、今後も検討を重ねていただきたい。

映像はこちら



百田 近年、あらゆる分野においてドローンの需要が高まり、須恵町においても、急な線状降水帯の発生などで、あっという間に道路が冠水することがある。ドローン導入の必要性の考えは。

総務課長
具体的な導入計画はない

ドローン導入の必要性は、ドローンの市場規模拡大の観点から見れば、日本のみならず世界において不可欠な技術になりつつあると認識をしている。

需要は今後増し、その技術的価値が高まるものと推察しているが、現時点では、町役場として、ドローンを導入することは考えていない。

現在、粕屋南部消防署には、ドローン2機、操縦士3名の体制が構築されたと報告を受けている。

百田 職員、町内の方でドローンの資格を持っている方

の把握はできているか。その場合、登録してもらい活用する考えは。

総務課長 現時点では町職員および町民の中で、ドローン資格を有している方の把握はしていない。また、町として保有者を登録し、災害時に直接活用することも、現在のところ考えていない。

百田 PR動画や建物調査などは外部委託を現在しているようだが、ドローンの資格を持っている方を使えば、外部委託ではなくて、支出を抑えることができると思うが、考えは。

総務課長 高度な技術とノウハウを持つ専門業者に外部委託したほうが、結果的に費用対効果を含め、効率的であると考えている。

平松町長 災害に対して、常に防災と減災を頭に入れている。大型ドローンの導入は、専門性、訓練した人間でないと難しいと思う。



今後、ドローン有効活用が必須です
(写真はイメージ)

その中で今後も有効活用しながら、台数が足りないなら消防組合の方で、もう1台増やすとかして、やっていきたいと思う。

※質問した議員自身の責任でまとめた原稿を、そのまま掲載しています。詳細は、映像配信をご覧ください。

教育

おざわ かずお 議員が問う

子どもたちの居場所づくりを

質問を終えて

こどもまんなか笑顔輝く未来へつなぐまちづくりを基本理念とする行政、地域が連携し安心安全な居場所づくりを推進していただきたい。

映像はこちら



男澤 須恵町の小学校3校、中学校2校の各校の不登校の人数を問う。

学校教育課長 令和7年10月末現在では、第一小14人、第二小19人、第三小8人、須恵中68人、須恵東中26人である。

男澤 アザレアホール1階ロビーの利用禁止期間と利用禁止に至った経緯を問う。

社会教育課長 令和6年10月18日から封鎖、令和7年8月に解除。ボールを持ち込み館内で蹴って遊ぶ、大音量での動画、注意した警備員に詰め寄り警察を巻き込む事態発生。

男澤 旧須恵区公民館改修費用の総額を問う。

社会教育課長 耐震診断の法令に基づく調査も含む結果であり、現在未確定である。

男澤 施設要望の有無を問う。
社会教育課長 大会などで、遠方のチームを招いた際の交流の場など数件の問い合わせ有り。

施設 旧須恵区公民館改修の必要性は

男澤 費用対効果を問う。

社会教育課長

長期的な視点で費用対効果費用対効果の向上

長期的な視点で費用対効果の向上に繋げる。

教育長

居場所作りだけでは解決しない

居場所づくりは大切な事だと思っているけれども、それだけで改善するほど問題は簡単ではないと捉えている。学校を中心に関係機関と連携しながら支援にあたっている。

PTAやおやじの会などの社会教育団体の献身的な御協力を得ながら一つ一つ丁寧に対応している。

質問を終えて

高い費用対効果を得られるのは、あおば会館の床の改修と考えるが、必要とされている宿泊施設への改修費用や稼働率の推移を見守りたい。

※質問した議員自身の責任でまとめた原稿を、そのまま掲載しています。詳細は、映像配信をご覧ください。